

五味先生の学習会より

10月30日久しぶりに五味先生をお迎えしての定例会が開かれました。前半を、今後の学習の姿勢を問い直す、という点で話し合いがされました。先生からは貴重なご意見として、先生が提示される受講内容をそのまま、受け入れるのではなく、自分たちが何を学びたいのか、もっと自主性を重視した学習会になるよう努力するべきである。というような提案をされました。それを受けて今後私たち研究会員は、前もって、事前学習をし、質問できるような体勢で学習会に参加することをその場にいた全員が 一致した意見として先生に、これからもよろしくお願いします、と報告しました。

今後は次回のテーマを先に決めて先生にお話を頂き、その後質疑応答の形で進められていくことになりますのでよろしくお願いします。

後半・先生の話『愛と孤独・・・もう一つのナルチズム』

ナルチズムにはいろんなナルチズムがある。(日本語訳では『自己愛』という)前に講演会で話したのは同じ『自己愛』でも病的なものの話だった。

病的な自己愛は、「**自分を大事にすれば、自分をだめにする**」ということになってしまふ。なぜなら、病的な自己愛は うぬぼれとなり、それは現実の自分よりも大きく自己を評価してしまうからであり、又それは、自分の本当の成長に目をつぶって見せかけの自分に満足している。本当の成長には痛みが伴うもので、その痛みを乗り越えて初めて成長するのであるから、それを避けて、自分が一番偉いといううぬぼれに満足する自己愛は病的であり低次なものである。

自己愛の基本的な考えは、次にあげる4つのものがある

健康的な自己愛 病的な自己愛 赤ちゃんや子どものもつ自己愛 大人になって発達して持つもの

など、お話されました。さらに詳しい内容は12月過ぎに掲載します。